

## 神勝禅寺 概要

神勝寺の古風な建物や広い庭園を訪れる人は、このお寺は何百年も前からあったと思ってしまいかもしれません。実際は福山の山あいには神勝寺が建てられたのはそう昔のことではありません。神勝寺は、地元の造船会社所有者であった神原秀夫氏（1916–1977）によって、海難事故犠牲者の供養の場として1965年に建立されました。

今日、神勝寺は2つの役割を果たしています。第一に仏教臨済宗の寺院であり、第二に「神勝寺 禅と庭のミュージアム」なのです。ミュージアムは、訪れる人に瞑想、写経、茶道、禅僧の食事などを体験してもらい仏教の禅の教えを直に学んでもらうことを目的としています。

建築物を鑑賞したい人にとってもここは見るべき魅力的な建物がたくさんある素晴らしい場所です。歴史は比較的新しいのですが寺の敷地内には歴史的建造物と現代的建造物が混在しています。

櫓造りの総門は江戸時代（1600–1867）に遡るものです。この門は元は京都御苑内の旧賀陽宮邸入り口の門でしたが、神勝寺建立時に神原氏により移築されました。

門をくぐると庭園が広がっています。日本庭園設計で名高い中根庭園研究所設計のこの庭は、中央に池泉が配置され、それを取り囲むように小道がある池泉回遊式と呼ばれる回遊式庭園です。

敷地内にはそのほか、「松堂」（藤森照信氏設計の寺務所）、「秀路軒」（茶室）、入浴施設、禅道場、彫刻家・名和晃平が主催する建築事務所 SANDWICH によるアートパビリオン「洗庭」など、新旧の建物が点在しています。